

婦人関係資料シリーズ
一般資料第16號

農村婦人問題について

その生活を高めるにはどうしたらよいか

—— 婦人問題會議記錄 ——

労働省婦人少年局

はし が き

この資料は去る八月一日に開催した婦人問題会議の速記録です。今回は第二四半期の主な事業である「農村婦人の生活を高める特別活動」の参考とするため、この問題の専門家、関係官庁、関係団体の方々の意見を伺いました。この資料がこの問題に関心をもちたい方々の御参考になれば幸いです。

目 次

- 一 挨拶
- 二 会議の趣旨説明
- 三 討 議
 - (一) 農家経済の現状と婦人問題
 - (二) 農村婦人労働と生活改善
 - (三) 農村における家族関係と婦人の社会意識
 - (四) 農村の協同活動

討議参加者

農業総合研究所長	東畑精一
農林省生活改善課長	山本松代
農林省農業協同組合課	堀江繁雄
農林省農政課	石田 徳
家の光協会	大石 四郎
労働省婦人少年局長	新井 いと
労働省婦人労働局長	小池 受
労働省婦人労働局長	藤田 たき
労働省婦人労働局長	徳田 辰子
(司会)	木下 啓一
内務省	内務省

農村婦人問題について

——その生活を高めるにはどうしたらよいか——

一 挨拶

藤田局長 今日はお暑く、又お忙しいところを御出席いただき誠に有難うございました。農村の問題について先庄方の御意見を伺いまして、私達の仕事を、める上の参考とさせていただきます。又調査なども進めて行きたいと思っております。それではこれから始めたいと存じます。

二 会議の趣旨説明

富田 初めにお話を申し上げなければならぬのでございますが、それは、皆様にお趣意をお願申上げて今日おいていただきましたので、田中課長がよんどころない用事で地方に出掛けることになり出席出来ないことでございます。どうぞおしからずおゆるし下さい。

今日お集り頂きました婦人問題会議の趣旨について少し御説明申上げたいと思えます。御承知のよう、婦人課では、婦人の地位の向上と、労働者家族の問題を取り上げて、それについての調査、教育、啓蒙、連絡調整の仕事をするつもりでございます。今年度からこの連絡調整活動の方針を少し変えまして、今日のような会議を行っているわけでございます。それは、現在最も大きな社会問題となっている具体的婦人問題、あるいは私共のほうで事業として取り上げている問題について、それぞれの問題に関しての有識者の方々に集り頂き、その問題を討議して頂くという、い

わが研究的な会議をもちまして従来の連絡調整会議に代えるわけでございます。又その時は、その問題に関係のある団体、あるいは個人の方々もお招きいたしました。そして会議を傍聴して頂き、後で協議にも参加して頂くというようにいたしております。そして、その会議の結果出ましたいろいろな考へ方、あるいは結論を基にいたしまして、私共の方で施策を立て、それを地方の婦人少壮室に流して、全国的に活用しているわけでございます。婦人問題会議というのはそのような性格のものでございますが、今回はその婦人問題会議の第二回目といたしまして、農村の婦人問題をとり上げたいわけがあります。

農村婦人問題につきましては、すでに皆様方がそれぞれの方面の専門家であつたやいますから多く申上げる必要はないと思ひますが、婦人課といたしましては、従来から農村の婦人の地位向上が日本婦人問題の最も大きな問題の一つである、というふうに考えまして、常にその為の方策を考へ、又実施して参つたわけがあります。例年、第二、四半期を「農村婦人の地位を高める活動期間」と定めて、いろいろな事業を行つて参りました。又、その期間中に、すでに農村婦人の生活の実際調査を二回に亘つて行ひましたが、又今年度も実施の予定であります。このほか農村婦人に関する統計その他の資料を出すということもしておりすが、ことに一昨年、第二回婦人週間中において、中央婦人問題会議を開きました際は、その中に農村委員会を設けまして、東大の大内カ太郎を初め岡崎文雄先生、あるいは凡四君子先生等、それぞれの専門家の方は農村婦人問題について、何故農村婦人の地位は低いのか、地位を必然的に低くしているいろいろな条件について、根本的な検討を加えて頂いたわけでございます。その会議の記録はその後出版いたしました。その会議の討論を聞いて、私は農村婦人問題の原則的な、理論的な分析が大変立派に行われたと思つております。これは、その後私共が、農村婦人を対象といたしますいろいろな仕事を行う上での大きな指針となつて参りました。

したし、又、地方職員室を通じていろいろな方々の間でも大反響をされて参つたわけでありました。

この二、四半期は、御案内にも申上げました様に、「農村婦人の生活を高める為の特別活動」をこの月の終りから来月にかけて行う予定でございます。皆様方の御協力をおねがいいたします。そこで今日はこの特別活動の前に行ひまして、特に皆様方にお集りいただき、現下の農村婦人問題について各方面より御高説をお伺ひし、この活動の参考とさせて頂きたいと思つたからでございます。

先程申上げました二年前の婦人問題会議の際に、日本の農村婦人問題の原則的な点、又、理論的な解決方法というものは、かなりはっきりと打ち出されたわけでございますが、その後農村問題は腹取の面からも大反響を動いているように思われます。又私共が行いました調査の結果にも、いろいろな問題が出ておりますが、この調査は、特定の地方に限られて行われました為に全国的な傾向と必ずしも一致してないという点もあると思ひます。

それで特に今日は、現在その動いている農村の問題を取り上げていふつしやる皆様方から、各分野における農村婦人問題の諸様相をお伺ひして、出来さすればその解決策まで御討議願えたいと思つてお聞きわけでございます。

そういうわけでございますから今日は理論的な原則論を抜きにして、もっと具体的な問題について、どういふ動きがあるかということを中心として御討議願ひ、それに即した解決方法を考へて頂きたいと思ひます。本日のディスカッションは、主として会議出席者の先生方にお願ひするわけでございますが、その後で、今日、オブザーバーとして御招待申上げた関係団体の方、報道機関の方に、御質問あるいは御討議を、御自由に、して頂きたいと思ひます。その様にして、私共が今後農村婦

人の生活をもつて活動を描いて行く上に大きな示唆を与えて頂ければ、大変幸せと存じます。

三 討議

人 農村婦人労働と生活改善

内藤　それでは唯今から、本日の研究テーマにしたがって研究討議を張りたいと思ひます。この場から私共の方でいたしました「農村婦人生活実態調査の結果について」という項目があげてあります。これは他の項目とも関連いたしますので討議のなかにとりまぜて進めて行きたいと思ひます。では順序が少し狂いますが、はじめに山本生活改善課長に、農村婦人の労働と生活改善についてのお話をお聞きして、それを中心に討議に入りたいと思ひます。

山本さん改切りに、直接御座るのある問題からどうぞお願いいたします。

山本　具体的問題では、個々の生活の中で、非常に能率を低下させて行く條件の解決、個々に解決出来ないものは生活の協同化によつて解決しなければならぬということ、又、どういふかな生活技術的な面での改善というものが農村の婦人を本当に救済するの、地位を高めるといふことではないですが、それはやはり農村婦人の労働が過重である、それを軽減しなければならぬ、いふ全体的な意識がなければ効果は薄いということをつくづく思ひます。例えば生活技術的な面ではなくても、この頃の新しい葉巻を使うことでも、農村婦人が労働過重だから、二四口を使ひまじようということでは、味はなれば趣味がない、でない、これを使つて来たら、その友は何をしようかということ、より激しい、あるいは同じ労働に追いやられて、誰が来をするかという問題が起る。かまどひんが改善して、非常に炊事時間が軽減されたり、かまどの火炊き時間が来になる、すると逆に、もつと奥に行つて草を取つて来なさい、という問題が出て来ておられ

すが、これは生活技術的な面を解決しても婦人の労働は決して軽減されない、従つて、農業経営を解決しても婦人の立場は、よくならないという問題が残ると思ひます。そういうことをやはり問題にしなければいけないと思ひます。もう一つ問題として、これは私共、今国立世論調査所にお頼みしているのが、全国的なものがどんな形で出て来るかわからないのです。けれども今でさえ農業労働に従事しているものは女の人が大変多い、女が七分、男が三分ではないか、甚しいところでは、男が二分で女が八分、新潟県四町の割合になつてゐる。すると、逆に言えば、生活技術改善しなくとも、その面において、家族内の労働の解決によれば、女の人々の労働が軽減される面が相当あると考へられる。

新妻　その問題で、私も農村を歩いてつくづく感ずるが、今までの女の方が牛馬のように使ひたのは、女の方が農業技術を持っていた、ということであると思ふ。例えば、熱海近所にあるミカン畑の剪定なんか、女にでも出来るのです。女が剪定しない急ぎ母がする、女が剪定出来るは男と同じ労働がやれるのではないかと思ひました。

私、他の問題でも、今までの家族制度で、女が使われていた、又従つていたということ、経営面なんかは口を出さなかつたといふことが、自然とぶら下り主義になつて、そういう農業技術といふものを女は持たせられなくなつた、あるいは持たなかつたという結果に追いやられてゐるのじやないかと思ふ。若い方がこれからという面に向つて行つたならば違つて来やしないかといふことを考へるのです。新しく進む道はそこにあるのじやないでしょうか。

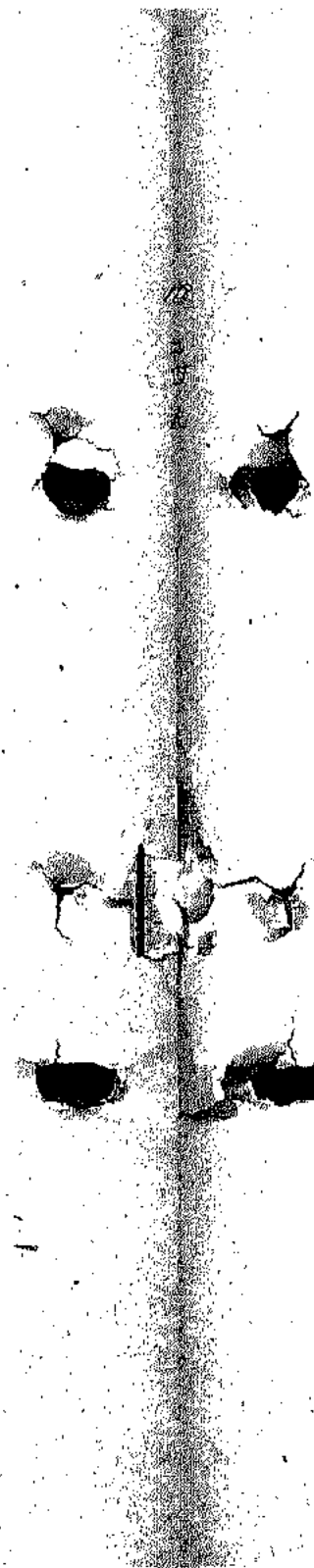
ところびややはり、男の子の場合に違ひますが、女の場合でございしますと、嫁に行く教育條件として習うのは、和裁、洋裁、お花、お茶で、農業技術をおつとも教へてない、ごくたまに四日ワラフなんかに入つてゐる方がさういふ方面を勉強してゐるが、大体においてさういふことがない。

富田 山本さんに伺いますが、今、新妻先生のお話にありました様に、女の人々が農業技術は身についていない、しかも実際に農業に従事している者は八対二か七対三の割合であるという場合に、実際の問題として、どういう形で、どういう労働をしているか、又それが最近になって動いているものかどうか、農村婦人労働が過重に過重だということは、耳にタコが出来る程言っているが、農地改革前と較べて少しでもいい方向が見受けられるかどうかという点について、いかがでしょうか。

山本 これはあまり根拠のない話ですが、戦争中に女の人々が余計労働したという習慣が残っているという見方がある。今、国立世論調査所に生活時間の中味は何かということを調べて頂いていますが、女の人は何をしているか、同じ時間に男は野良に出ないで何をしているか、それが出て来ないとはっきりしないと思います。

木下 私共の調査でも、山本先生がおっしゃったように、農業に従事する者の数は大抵の村で女の方が多かった。すし、農具も機械の操作は男がしますが、そのほかのほとんどの作業に婦人が従事していて、労働が非常に激しい、ということが現われています。それどころか協同の力があるいは新しい農具など、婦人の労働が軽減されたというようなケースがあります。ここでお話し頂けたらと思います。

山本 それは、二四〇を使つて女が楽になったということも出て来ており、それから共同炊事をして睡眠時間が増えたということもあり、これは私共の方で調査があります。二時間近く主婦の睡眠時間が増えた、それも一審忙しい時の睡眠時間が増えたのであります。それから他のところでは、共同炊事をした為にはやはり睡眠時間が増え、子供の世話が出来た、というのが出ております。



また、季節託児所をした関係で婦人労働が楽になったという場合もあります。けれども、先程申し上げたように二四〇を使つても、また岡山のように、機械を使つても、生産されるものが派山しやないから余計、終を張つておられるということになるのでしょうか、過重になって、身体は余計弱つておられるという調査も出ております。そういうことを考えると、何の急に機械を入れるかということが根本的意識として解決されない、ちっとも労働が減らないことになります。

新妻 農具の問題ですが、あそこはモデル村で、徹底的に機械化をやつたらその為、女が大変に暇が出来たので今度は金を織り始めた。結局女の人には暇が出来ないという結論になった。ということをお伺いしましたが、豊表を織らなければいけない、暇が出来たのに、農家は収入が少いから少しでも収益をあげるために余計な骨折を女の人をして行く、ということになりますね。内藤 唯今、農業が技術的に向上しても労働は減らないというお話が大分ありました。家の光協会の方、いかがでございますか。

小池 今までのお話を伺いまして、やはり婦人の方が男子よりも農業労働を多くやるというのは却つて、暇がよい処よりも、単に寒冷地帯の方が多いいやないか、それはどういふことに原因しているのか、その辺を先生方からハッキリお聞きしたいと思つたのです。

水田では技術が、非常に簡単にございますね、草取りとか、水稲の栽培というものは、野菜等に較べまして非常に大まかな技術、いわゆる品種とか、灌水などの配慮がなければ失敗がないということになります。段々、そういうことは真面目な女の人には任せて、男は組合の専合とか何とか言つて、洋服に下駄ばきで歩いている、此の方にそういうのが多いのはどういふわけですか。山本 やはり意識の問題だと思います。今日でも、女の人がお茶を飲んじやいけないという処がある。

お茶を飲んでいいというのは、よっぽど耳を取ってから何かの機会——お客様でもなければ許されない。そこでは「せめて女もお茶を飲みたい」と言っんです。そういう条件で雇いつかね

れているんじゃないかと推測しています。

富田 それは、経済の面もないでしょうか。非常に収入の少ない農家では、無理をして女の人を雇っている。

木下 岩手の調査した村ですが、耕地は割合に大きいのですが、お金になるような作物がとれない。そういう処ですと、農業は女に任せて、男は賃金労働に出でしまう。又、昭和の、名古屋に近い村ですと、今度は主人が殺人であつたり、男の子は勤めに出でしまつたりして、やっぱり女の人

が農業をやっている。

そのように、農業を女にまかせて男の人は家計を保つために別のいい職業に就いている場合が多いと思います。

山本 都市近郊にはたしかにその形が多いですよ。

小池 東北等は、実際男が出勤せに行かなければ一家の経済が保たないが、農業労働において女が中心になるという風習は、長い間に生れて来ていることは事実ですね。

新妻 秋田で聞いた話では、水田一町半以上持つてしていると却つて雇はれにくい。五反しか持つていない方が男は喜ば、何故かという、女の方だけが雇ひて自分は勤めに行かれるが、一町半持つて

いると、そうは行かない。だから却つて雇はれにくいということです。

藤田局長 山本さんにお伺いしたいのですが、さきほど共同収束を行つた為には睡眠時間が多くなつたところがあるとおっしゃいましたが、そのことは、そのこと自身と並んで他のことがよくなつて

いるということを見出していられるわけではございませんか。放つておけば労働が他の面にお

いて強化されて、同じだ、という地方もあるし、そうではなくて、睡眠時間が増える結果もあるの

です。その機着の方について、何か、例えば都会の近くで封建性が少ないとか、何か原因があ

れば伺いたいのですが。

山本 さくなつたのは一例しかないので、

富田 睡眠時間が長くなつたというのは最近の条件のところではありませんか？

山本 やっぱ私は目的なしで組織を収めてしまふということが問題だと思つたのです。

組織が目的ではなく手段なので、こうしたいと思つたものが出来て始めて出来るので、先ず

組織を収めてしまふ、ということでは解決しないと思います。今までがすべてそれですむら解決

出来なかつたのです。

新妻 睡眠時間の問題ですが、静岡県の小笠原です。夏になると、帰るのが八時過ぎになるから、

昨更あがりサマー、タイムだと明るいから、御飯食べるとどうしても十時過ぎになる。それから

後には用があるし御主人がよそに訪問する。私達行きましても、農村では夜おそくなることは平

です。座談会を夜十時頃から始めるところがいくらでもある。よその家を訪問に来ても十一時、

十二時、一時まで話している。するとお嬢さんは、帰ることが出来ない。しかし、いかに夜遅く

ても朝一番早く起きなければならぬから早くおかしなければならぬといふことで、村の寺の

鐘を十時に撞くこととした。それが鳴ればおもしろいといふことにはなるので、あとは、話したければ話

していらつしやいといふことで、睡眠時間を余計取ることができるようになつたと言つていまし

た。そんなのも一方法と思います。下田の方でもやつていふと言つておりました。

小池 僕も、山本先生がさつきからおっしゃっているように、農家における婦人の過重労働は、経

済的に徹底して国が富めば、いくらかうるおう、他の意味で、現在の農村は決して手が足りなく

はないと思う。私共が出合に行つて思はずと、都会よりも一層、農村では切き路りの青手男
女がだら／＼遊んでいるのが多い。だから手不足ではない。結局先程の、何が目的とか意識をハ
ッキリ決めて、それで組織を作つて運動して行く頃の切りかえの方が先でないか駄目じやないか
と思ひますね。

私、つい十五日ばかり前は、奈良泉の大正村という十五戸ばかりの村に行きました。こゝでは
共同炊事をやつてました。やはり、技術的にいいとか経済的によくなると言つても、それが直
ぐ効果の軽減にはならない。

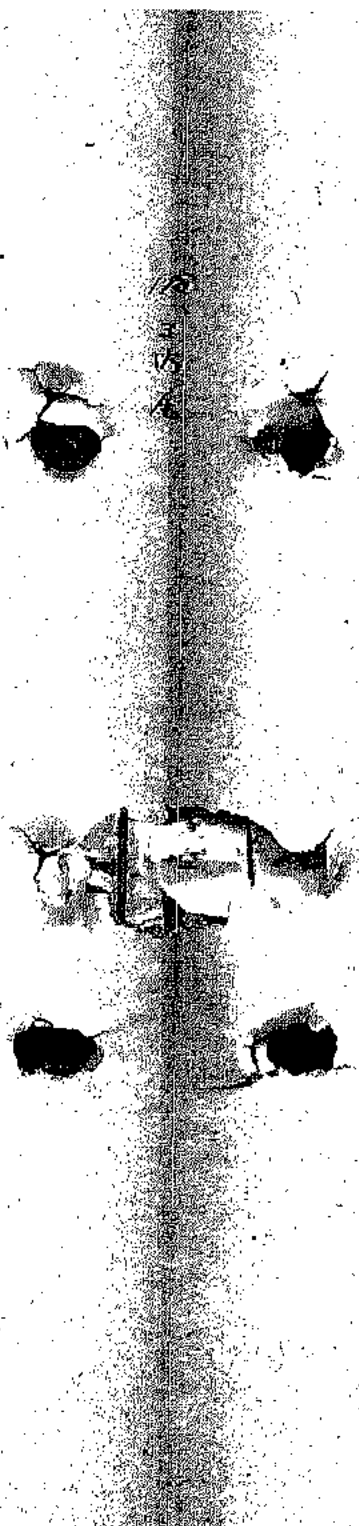
山本、この向見て来たところですが、ある部落ではともきれいに掃除がしてある。農村は手が廻
らないので大抵土間なんかも汚いのですが、一体ここはどうしてきれいなのかと聞いたところ、
そこは非常に生活改善をしている部落で男の人達が、男は事を持つものではないと思つていたら

この頃では男だつて持ちますと言つてました。

藤田局長、だから、やつぱり考え方を改えて行くことですね。

木下、本当に改善の意欲を持つということとは大事なことと思いますが、私共で調査をいたしました
五つの村のうち、岩手の非常に遅れた村で、仕事も過重で生活程度も一番食しい村ほど生活がよ
りよくしたいという意識が低いのですが、そのような意欲を出すためには、どうしたらいいでし
ょうか。

山本、それはある程度郷土を叩きたいなことです。意欲をかき立ててやろうと思つても出来ないが
やつて見せればやれるということが難しいと思ひます。忙しいから人の話を聴く暇がない、もの

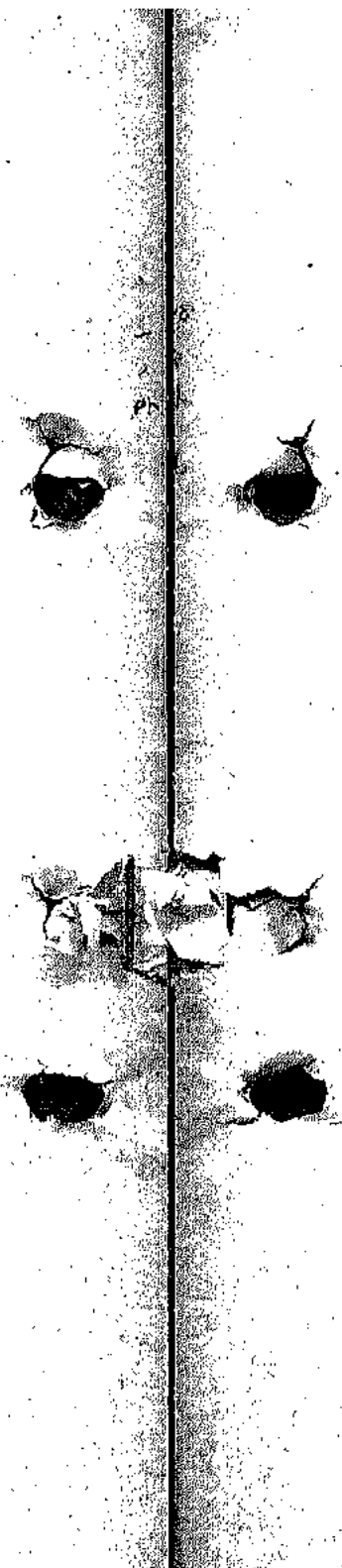


を見る暇、やる暇がないということも言えましょうし、読まないからいよいよ自分の生活が向上
しないということもある。ですから私達のやり方としては出来るだけいい例を見せ、灯籠なんか
でも数多く見せる、そういうことから意欲を持たせること、その次にはやつぱり、やつてみるこ
とですね。やつてみることによつて案しきを知ると言ひましょうか、大抵の意味を知るとい
ふ面もある。本当に、何方からでなければ駄目です。

改善した家はこういう條件かということをおのりの方で少しづつ調べたのですが、面白いことに
その家から兵隊に出て帰つて来た人があるとか、案外出稼ぎに行つていてという家で取つつき
が早い、ですから、給金だから改善するとも言えない、歩いている時に改善してゐるのを見たとか
あるいは兵隊の時がイライラたきをしていて、これではかまぬわいというので、かまどの改善をす
る、ですからやつぱり、外に暇を向けてないということが問題です。何方から行かなければいい
ないでしょうね。

新妻、農業技術の面でも、直播きをやつて二回を収つたり、女の人はずっと案になると思ふのです
が、私は方々でそのことを聞いてみたのです。すると、やつてるところはいいが、やらないとこ

るはいろいろなこと——例えば買掛金にすると華がよくなる。それを初めの中は華取りの暇が大友だから田舎をした方がまだ楽だと言ったりとてなかなか新しいものにとりつかないのですわ。



（東畑氏出席 山本氏退席）

2. 農業経営の現状と婦人問題

内 藤 唯今まで、生活改善というところからいろいろの問題が出て来まして、その中で農業技術の改善しても婦人労働は軽減されない。それには農業の経営の面とか家族関係などが大いに関係があるのではないかというようなことが論議されて参りました。

丁度東畑先生もいらつしやいましたので、先生にこの問題について農業経営の面から御意見を伺いたいと思います。

東 畑 奥蔵はどうなっているんですか。私、あまりよく知らないが——

番 田 山本さんのおつしやった例で、二四〇を使うというふうな場合に、女の人はその問題からは解放されるが、その時間が又他の面にふり向けられる。それは必ずしも経営の問題だけでなく、家族関係において、女は朝から晩までやる／＼働き廻っているけれども、観念から来る。従来農村婦人の解放の根本的な原則とされておりました農業経営の改善ということが必ずしも婦人の解放を現実にはもたらしていない、というお話だったと思います。

東 畑 一つはこういう問題があるんです。機械を使へば労働は減る。だから労働は減ると言いますけれども、機械の代金は誰が払っているのだということになって来ますと、折角労働は節約したが、機械の代金を払えないとなれば、又効かなければならぬのは当然です。ですから、機械の効率というところがどうということには関係あると思います。

おそらくみんなの意識から言えば、暇になつたから遊ぶというふうにはならないで、やはり穴をうめておく。だからそういう問題は一つの慣習ということとで、国民経済全体にあつて、それが普及して来れば改善出来るかも知れないが、一軒や二軒なら、隣りは遊んでいるじやないかといわれたりして

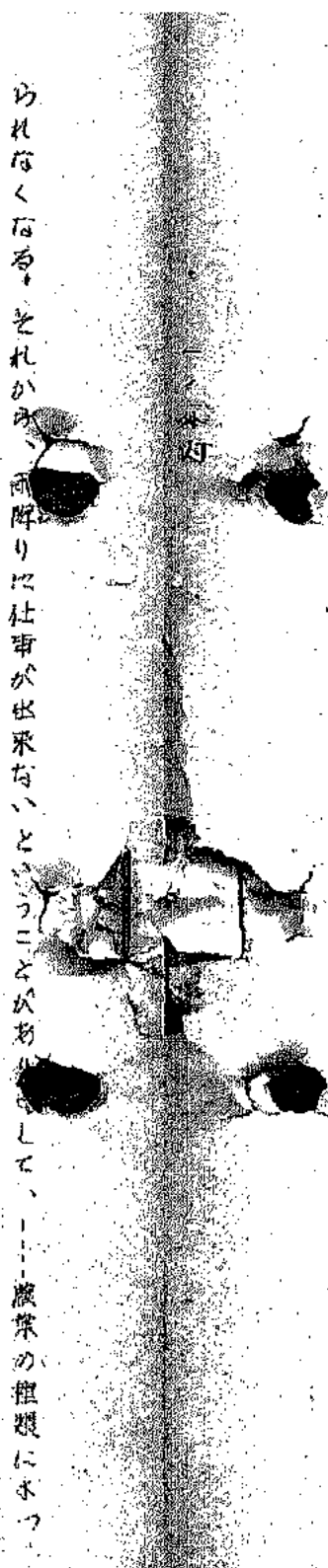
却々直ぐは出来ないと。思う。ですから、全体としてそういうことが出来るかどうかということにかかっていると思えますね。

富田 そうしますと、やはり機械等の価格と農産物の価格とのバランスの問題でございませうね。果樹 そうでしよう。そこまで合理的に議が働いているかどうかは別問題としてね。実態がどうなっているか。おそろくおつしやる通り、私は多少糸になつて眠にあれば、その時間は少くとも思う。ある程度、働いた方がいいんですからね。へんに解放するよりは。たゞその際どういうように労働するやということが問題ではあるが、ただ、仕事をしなや、解放だ、という態度はよくないと思う。だから、労働の程度などについて実際の調査が必要じゃないんですか。

農民は朝早く星を頂いて出掛け、星を頂いて帰るというが実際はどの位働くかとストップ・ウオッチで調べたら、一時間四十分しか働かないで、あとは雑草をすつて、人が来れば話をしたりして遊んでいて、と面白いことを言われた先生があります。

今の話は極端ですが、労働時間という問題は、どれだけ集中的に働くかということが問題なので、たとえは機械労働で、機械が中心になつて人間がついて行く労働の場合に七時間働いた、八時間働いた、というのの意味がある。農民の場合は、自分の気持ちでやれる労働だから労働時間の概念というものは却々自然的に成立しない。ですからやはり道義が増えて来たり、家畜を増えてくると、時間の概念がハッキリして来る。政府は、一定の時間は、人間と違って一生懸命働きますからね。政府は極端に敬意が払えない。工業の場合は、機械動力が承知しない。だからそこまで関係付けぬ限り、労働時間の問題というのは一層取扱い難い問題だと思ひます。

それからもう一つ重要なことは、シュネーバが何かで、八時間労働が農業に適用するかどうかということだ、それは適用しないことになつたんじゃないですかね、それをやらせてしまふと生産を上げられるもの上げ



られなくなる、それか、雨降りに仕事が出来ない、ということがあげられて、農業の問題によつてさう。そういう概念を扱った方が、実際に合つて来ると思ひます。

富田 機械の効率、労働の効率の問題に尽りますか、結局農業経済は、二、三年前、あるいは戦前よりも、工業の否に較べてよくなつたということが言えますでしょうか。

東畑 農業としてはあるいはよくなつたかも知れませんが、しかし、農業とすると、一寸話は變つて来ます。と申しますのは、専業の人が非常に少なくなつて、農業が一掃多くなり出したね。農業収入というものが少いかどうかということだ、それは多分農業としてはハッキリして来ます。

内藤 最近における農業経済と、そこにおける農村婦人の問題、たとえば農業経済を考えた場合に、農村婦人に救済の道があるかどうか、ということについて――

富田 それはとても漠然とした話ですが、日本の農業で、いい農業というのは、大体細君が片が好まざるであるとか、百姓が好まざるであるとかいう態度で、これは段々よくなつて来ると私は思ひます。例えは、阿蘇山の近所の何とかが、農業では、昔から代々の農家訓があつて、第一條は「百姓は土地に惚れぬこと」、第二條「百姓は農業に惚れぬこと」、第三條は「百姓は家畜に惚れぬこと」、その三つに惚れなければならぬ、ことに家畜、乳牛なんかに惚れるのは、細君が惚れる家はよく見たない。そういう意味から言えば、上牛に細君を供するおなじの家は然立派だと思ふ。

富田 それは、農家の人数が多少とて農業技術を持つていこう意味になりますでしょうか。

東畑 そうです。それからもう一つ、農業技術ということに問題しますけれども、農業を持つていける農家というものは、毎日訪なければいけません。普通の、家畜のない農家と違ひまして、たとえば乳牛なんか持つてゐる家は細君を雇うからよそに行くことは出来ない。

北海道の中標津という処に中沢万太郎という、元、漂流した人の跡が百姓をしています。約十五町歩、馬を三頭、乳牛を四、五頭飼つて愉快によくやつてゐる。一種のトルストイみたいなのところがあつて、すが、その奥さんというのが非常に農業がうまい人です。これは夫婦揃つてやつておられるが、奥さんの話を聞いてみると、牛はどういう性格を持つてゐるとか、鶏はどうだとか、機はつく／＼その奥さんに感心して歸つた。同時に、百姓としては一定の規律と礼儀があるという考へ方で、非常に威風凛々としてゐる。毎羊乳氣から自分の女子大だつたと思ひますが、その學生が何人か来られた中がミチツとしてゐる。毎羊乳氣から自分の女子大だつたと思ひますが、その學生が何人か来られたら、この學生に対する教へ方、実践的な礼儀ですが、乳を搾つて、中に一寸ワラが入つてゐるとか、蹄塵に一寸ハエが入つてゐるとか、これに對して非常に厳格にやつておられる。そういうふうに規律的にやるのですから時間か缺つてゐる。おそらく日本の内地にも、深山そういうのがあつたんじゃないかと思ひます。附近の農家から、その中沢農場へは見習に来る人が多い。

内藤 唯今のお話だと、農家の主婦がその家の農業のくり廻しを自主的にしなければならぬ、女の人を、積極的にやつた方がいいということですね。

東畑 教訓的はどうなるかしりませんが、私は、農民になつたら、農業は夫婦でやりなさいです。密田 農村婦人の解放という場合に、農耕からの解放、いかにして、農村で行われてゐる激しい農業作業から解放するか、といったことが、眼目に留ります。その場合には、農耕からの解放ということはどうの程度までのことを考へるべきでしやうね。

堀江 それは、農業というものをどういうふうには理解するがということにやないですか。新妻 農業をやつて行くには男が経営しなければならぬという所があるが、要領經營をすればする程、女の手が要るやうになる。ことに先生がおつしやつたやうに、大抵、牛を飼つたり鶏飼つたりするのは女の勞働ですからね。

小 通 その程度はいいぢやないですか。

新妻 それならば耕作する方で幾分軽減するかと、しなないで、ただ勞働が増して行くだけの話になるんです。

だから、農業など使つて、女の人が出来ただけそういう方面に出ないで行くようにして、農家の仕事は誰かば、農民職をもちとすることになれば、つと送つて来ると思ひますが、両方やつて、農家の助けをしようというんですからね。

東畑 昔、アメリカの百姓の家にやつて、いつか一番からい労働かと聞きましたら、農機を貸付ける時が一番ひどいと言ふ、それは男がやる。ところがトラクターの運搬は男でもないから、女に手伝はるでして、水の男がやらなくてもいい。花付けのだけ男がやる、と言つておりました。なるほど、農機が来て来ますと、運搬は来にる。だから女も一人前に雇はれる。それがない限りは、男女平等の健全は出来ぬ。

大澤 婦人協会（高桑）一寸お伺いしますが、日本の農村婦人のみが労働過重なのではしやうか、世界各國においてはどうなつておられますか。

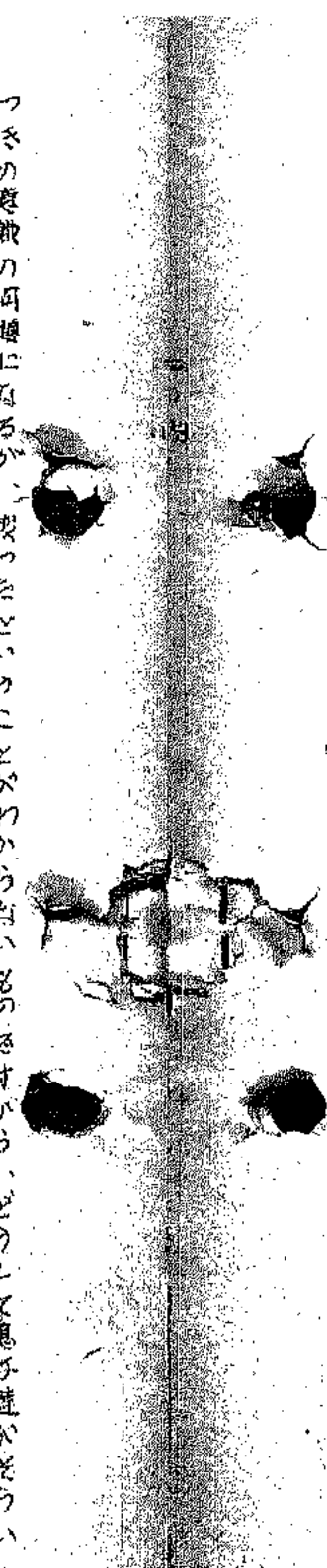
東畑 東洋は一番ひどいでしょう。アングロサクソンは、女は初かんです。しかしドイツ系統はみな女です。

藤田局長 アメリカはどうぞでございますか、アングロサクソンは、アメリカでなしな人ですが、東畑 ありしならしいですね。アメリカでは、大陸の連中というのは、みんな女が働いてゐる。

3. 農村における家族関係と婦人の社会意識

内藤 それでは次に家族関係と農村婦人の社会意識という問題に入りたいと思ひます。

新妻先生は方々みておられるので異態をよく知つていらつしやる人じやないですか。新妻 これはいろいろの問題があると思ひます。それは、意氣に日本の制度が愛りましなのので、今までの女の人は、経営の面は御主人がやつて、それにぶら下つてゐる。いわゆる牛馬の働きしか肩かつたといふ奥に原因してゐると思ひます。今、いろいろなきで、そういう問題にからんで来てゐる人じやないかと思ひます。例へば二、三男の問題といふのは、失業とか就職難とか、あるいは又、農業で今まで養子に行つたのが行かれなくなつて、そういうことが少くなつたとかいふ問題があると思ひます。私はむしろ二、三男の問題は、長男の問題である。つまり、考えさせられる。といふのは、昔は、長男はあととりだからあまり利巧でなく、家を守つて、親が歿したものを守つて行けばいい、といふ考で、學門も出来るだけさせない、小學校位で止めさせてしまふ。よい教でも中學校しかやらなかつた。ところが近頃方々歩きますと、村の半数位は高等學校に行つてゐる。長男も高等學校に行くやうになる。それはもう一つからみまして、均分相続の問題がある。例へば、長男が後取りなくともいいじやないかといふ問題がある。そういうところで高等學校を出すと、何か積蓄を爲した動機がなくなるといふ傾向がある。これは、むしろ今までのやうに、農業のあと取りといふものは、學問がなくていいといふふうには親が考へたことに間違ひがある。そういうことが、文化も遅らせたり、悪いではあるが、政治の面でも農村の力を弱くしてゐるのだと思ひます。子供達を一生懸命仕込んで、よいあと取りを作らなければならぬ、といふ話をするのですけれど、子供の方は、少し學問するともう都合にはたくなる。親の方も、子供が學問すると、非常な不安を感じる。例へば、中學校を出た、少し進んだ人が、四ハクテブなどの判教をうけて、勉強しようとしてラサオを贈くと、「ヌラケオがけてるのか、そんなことしないで、農でも片付けろ」とどなられるから、ニューズ解説を贈けないで困る、といふ思ひもあつた。だからお母さんが、昔からのカラを渡らなければいけないと思ひます。



つきの意識の問題になるが、思つたといふことがわからぬものですが、どうして思ひ違ふがそういうことになつたか、わからぬので思ひ着……といふことになる。このやうなことが親子の間に多くあると思ひます。

娘、姑の問題では、割合にいい方の問題を申上げたいと思ひます。

夏の農閑期に於りますと、農村では泊りかけで講習会をやむ場合が沢山ある。例へば家の老の文化講習会で、一泊二日とか、福井辺りに於りますと二泊三日位い致します。参加される方がお持ちのようです。子供さんの事を皆さんに聞いてみるとお嫁さん達は「お姑さんがお嫁さんに来てくれる。私は一年の中で一番この日が来しみて働いてゐる」といふことをおつしやる。方々の講習会に行きまして、皆さんにそういうことを伺ひます。そうすると、近所のお嫁さん達が迷て行きますから、うちの嫁も出さないといふ近所に於てゐるといふとお姑さんの見解を出してくれといふのです。

そう一つ、私、幾度野金といふものを日本農業新聞に書いたことがありまして、現にこれをやつてゐるところかと思ひます。これはお姑さんの名前を野金にするので、お姑の面がよくなつた。その村では、お姑さんが非常に嫁さんを大事にしてくれる。これも一つの解決の手段として考へられます。ムミロを献金するところ、お母さんが、子供を助けてやるから早くムミロを織りなさい、といふ場合で、その村は嫁姑の問題はよくなつたといふことです。

それから、婦人の社会意識と言ひますが、婦人の地位がどのやうに変わったかといふやうなことにいつては皆目わかつてゐないと思ひます。講演会などで、相当大勢出て、いい村だと思つてゐるやうな村は非常に増えます。何故かと言ひますと、一つの習慣といふものに對して批判してゐることをしない。それを解決したところ、一つあるのは、山口県の高瀬町と言ひます。——中国地方では御承知のやうに、御婚の時に地蔵さんを持つて来る。それを持つて来て、夜明けまで青年が飲み明すんで

す。若しそれが、お通が足りなかつたりしますと、地蔵さんを置いて行つてしまう。するとその地蔵さんは自分の腹で抱付けられはならない。

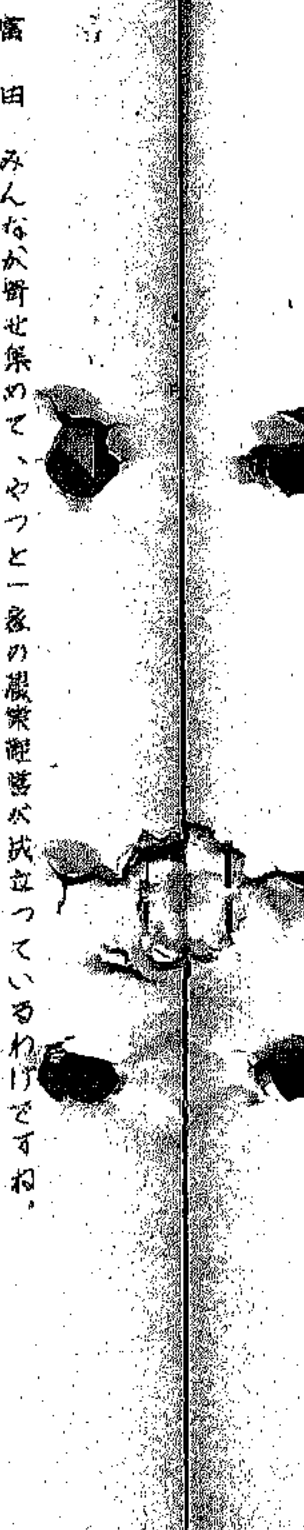
これを改善しようというので高森町の婦人会が卒先して止めることになった。ところが、そんなことをすると青年連はお酒を飲めないから、婦人会長さんのところに遊び込みに来たこともあったが、それが大体改善されて今年で三年になるということです。婦人会長さん達が頭がいいからできたのです。

富田 お通さんとお姑さんのことは農村婦人と合した時、その後で座談会があるいはデイスカッションとする時に、議題に何をしようというかと、どこに行つても出るのです。

新妻 農村ばかりではないが、都会では割合にお姑さんが居ませんし、居まして外に出る機会もありません。これは結局家族制度のしからしめるところだと思います。

富田 そういつた状態か。先程のお話の中で、養老野金でうまく行つてゐるというお話がありました。が、根本的には、別居とか、あるいは主君の単位を別にすることが考えられようが、奥蔵問題としてそういうことが見えておりましようか。

新妻 それはよく問題になります。別居生活をおつしやる方は、割合に非農家の方に多い。農家の方は、そんなこと、出来ないと言ふんです。何故かというところ、お姑さんとやつぱり仲が悪い。ですから、一方では嫁姑の仲の悪さというものがあつたから、やつぱりお母さんは一つのお姑さんなんですよ。やはりお炊事等は、忙しい時には本音にお姑さんがする、若しやらなければ、お姑さんが帰つて来てやらなければならぬというところがあるので、一箇に居るくなく、別居の面では一箇に居なければ都合が悪いし、託児所でもあつて置いて行かれる方がいいが、そうそう託児所のあるところもありませんから、そうすることやつぱり家でお姑さんが見てくれると、それで安心して行かれる、ということなんです。



富田 みんなが皆世集めて、やつと一家の農業經營が成立つてゐるわけですね。

新妻 ええ。ですから、お姑さんや都会の衆院店とは違ふんですね。

木下 私共が調査いたしました時に、子供が結婚したら親子は同居して方がいいのか、別居した方がいいかと傾向したのですが、九〇%以上は同居がいい、その理由も、子供を見て貰えるというのが、どうして同居しなければならぬということを考えてしまふわけですね。

小池 調査を総として、人間としての信頼感なり行き方に違いが出て来ている。

それか三十年と四十年と五代が更替せば合はぬのが当り前です。自分の叔と、生んだ母親と、全然気持ちがマシくないんですからね。それが、そこから来て合ふ方がおかしいと思う。

富田 結婚はいつか決つてゐるんです。本音の親子と思へ、誠心誠意やれば必ず通じる。と言ふのですか。そうではないと思ひますね。両方お互に他人と思つていけば……。

内蔵 去軍地方選挙がありましたね、国会議員の選挙よりも地方選挙の時に向題が起されてゐるやうに聞きますが、その奥は何かございますか。

新妻 自分たちの村がよくなるのをわくるくわるのもみなあな地方の一環ですと言われ、その時は成程と思ふが、さて今度は誰に入れていいかわからないと農村の婦人は云うのです。みんないいこと言ふんですからね。お姑さんを選挙するんです。なんで言ふ代議士は居ないから、それがわからないと言ふ。しかし選挙については、何より何となく農村の婦人を目覚めて来てゐると思ひますね。

と云ふく、まだ解放されてから七年にしかたらないんですからね。そういうことを農村で言ふ方がうございますし、私、皆さんにお願することは、農村にどんどん入つて頂きたいことです。

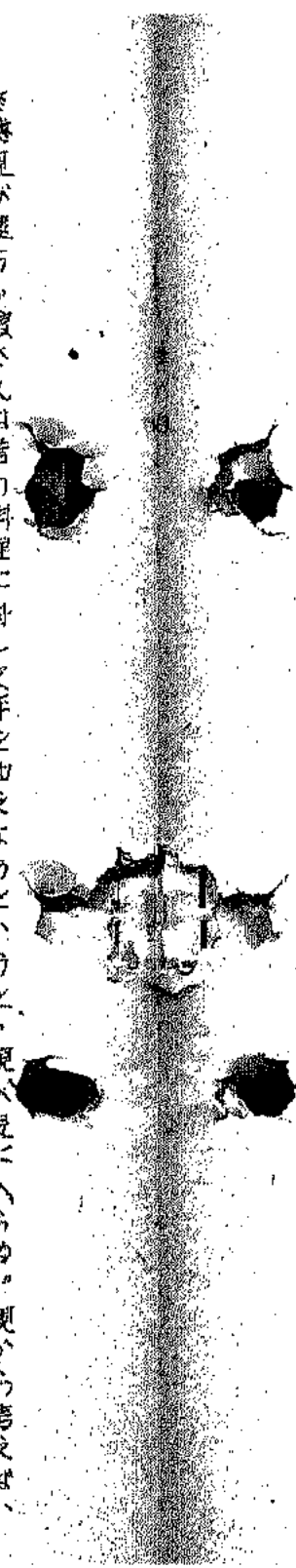
小池 逆説的のようですが、社会意識というものは、農村はむしろろんせ口に近いか、都会よりも、一歩の方方を際いては、もつていない方が多いんじゃないかということをや非常に感ずる人です。

もう一つは、都会に居ますと、夕刊一冊讀まないで物忘れしたような焦りを感ずるが、田舎に入り
ますと、一週間新聞讀まないで、最初の一日はヘンだが、あとは平氣になつてしまふ。ああいう
状態の中に居て、社会意識を概念的に持たせようと思つても、部落の隅りに對する意識の方が強く、
社会意識は持ち得ない状態にある。

木下 農村婦人の意識が外界との交流が少いために非常に低いというお話がたまに聞かれるが、私共の
調査を通信圖の止まり部落の格や村の格の多い岩手の村では婦人の意識は非常に低い、それが奥州
や岡山などの、村の格よりは村外格の方が多い村になりますと、社会意識が格段に違つて来る。この
ように社会的環境は社会意識と深い関係があると思ひます。

内藤 東畑先生も、よく農村の方に不出掛けの様ですが――

東畑 意識の解放ということは何五十年來の問題で、横で意識ばかり解放してどうにもならない。
元アメリカでニグロの土人を解放した時に、奴隷は主人達が茶を飲んでも何かしてゐるのをみて、あ
れが解放されてゐる状態じゃないかというので、當時ニグロの面をラヂン語とヤリミア語の本が一冊
売れたということだ。それで解放されたという氣持を持つた。それが三年五軍経つて、勤勞した
れば生活はないということがわかつて来て、自由ということばかりの如く金がかかることかと思つた。
という點があります。例のプーカ、ワシントンが、附近に學校を建ててやつたのがたしか二十世紀
で、その面約五十坪しかつてゐる。ワシントンが學校を建てた時分は勤勞を教えるという意味で、一
郎にはニグロの社会で反對があつた。そんな屈辱なことをやつてゐる奴があるかという一筋があつた。
結局タスキーン大勢は今一つメソカみたいになつてゐる。日本の農業の場合、農家問題――
ことに古い世代と新しい世代とは相當の意識の相違を意見の相違もある。農業をやつておつて、お
やじが植えようというのと思ふが植えようというのと意見が違つてゐる。又、何を食はうということ



を意見が違ふ。娘さんは昔の料理に對して手を加えようという、親が疑に入らぬ。親が言へば、
仕草が違ふにわづ、息子から言へば、親父かやましくて疑にくわぬ。こうなつたら家を建てて別居
しなければならぬ。なるべくいい意味の個人主義で、親父は子供に小作させたらいよいよないか、
板に半分なら半分、それは親父から離れて独立の意志をやる。その土地に對しては、公定小作料のよ
うな安いものでは仕方ないから、間小作料を払つてやらせる。農物も、二重の手間が知れないがそ
ういう形をやつて行けば、一歩ずつお互のいいところが出て来る。息子を、親父の言うことをそ
んな馬鹿なことばかりでいい、ということもわかつて来る。怪めてやるやかな話ですが、そういう案
から行く他に道はないと思ふ。意識が一歩に飛躍出来るというのはおかしな話で、一生かかつて作つ
た意識ですから、全然変換しない。

それと同じ意味の問題は適當農村にありますね。

富田 意識が変つていくことは一週一々の問題ではありませんが、戦後の日本では、農家の生活を引
つくり直すような大きな変革があつたので、それを踏んで變つて来るといふ事――

東畑 それは、女の人が一掃のさしきものですよ。事實これまで会合に女が出て来たことはなかつ
たが、それが出て来るようになった。少しづつで前に進んでゐるやうに思ふ。第一新聞に出てゐる
輿論調査ではどういふ人に對するのかわかりませんが、女の数が多い。昔は全然さういふことは聞か
ない。ただ、私も必ずして自信を以て言へることではあります。農村の教育が、日本の
教育制度から言へば都立一階、南洋群島を千島も同じ教育をしてゐるから、その意味から言へば
すべからず生活及び労働という部分の教育というものがあつてゐないと思ひます。地についてない面
が相當ある。それはさうとして別に聞いて、家に帰つて来るので、頭の中がよほど違つてゐると思ふ。
植民地に行くと一番ハッキリしてゐる。――急に先進國に違ひつゝとしますから――日本の教育はさ

非常にそういう風がある。そこで、実質的な教育をしなければならぬと思う。それが、都立では出
来ぬが、農村では引つかりをつけるということは難しい。

富田 その英、新しい教育制度では、中央集権が改められて、教科書や教科課程も地方地方で定める
というふうになつてゐるわけですか、

新妻 そう巧く行つてないです。私、この岡山地方で應接商の縁などが出来てゐる教科書を見たので
すが立派なものさ驚きました。あれ買わされるのも、農家として実に負担ではないか。それで、年々
返つて、後の手帳に読めないんですから。

東畑 私は、時に農村に帰つて、昔の小学校の同級生等と話をしてはいますが、もう少し頭を使つたら
よくわかると思うことがずいぶんあるんです。

昔の話ですが——僕が小學校を卒業いたしましたして二十五年になる時に、偶々夏休みに行つてしま
つて、二十五周年をやりました——集つた連中、二十人位おりました。私がお前一番若いと驚かれ
れたんです。私は昔から別に驚が白うございましてから東京でおじいさんと離れ合つた後、あれは
が、田舎に行くとなつたが一番若いという。それが農村問題かと思つたのです。どういうわけかとい
うと、一極感じましたのは、偏食だ。同じものを食つてゐる。カボチャの時期になれば朝昼晩食う。
大根の時期になれば朝昼晩食う。それは、日本では百姓は巨給自足だ。自分の食う物は自分の取つて
る。今でも開拓地の人かでそれをやるからひどい。非常に堅固な食料だから栄養効果がいし、どう
してそ一ぱいどこかにいつてのみたくなる、食物を何とか工夫することが必要じゃないかということ
を非常に感じます。

それからもう一つは、ことに春から秋にかけて、相当所切は教しい。教しい所切を慰安するものが
ない。直ぐへんなことを申しませんが、おどろくべき生活です。それで健康を削してしまふ。それ

外に何かあるかという考え方をします。

ですから、全体としての養ひみさへあればいいので、そういうところから方法を請ひて行けばいいと
思う。もう一つは知識と云ひますか向上心と言ひますか、多少頭を切らすということですね。これ
の方に段々向いて行くと知識も出来て行くと思ふ。ノーマルは人間を対象にした考案から行けば、や
はり養ひみさなければならぬ、それをつくづく感じてゐるんですが——。こういうことは、おどろく
都會にはそれ程のことはないと思ひますね。

富田 今、性の問題が起きましたが、いかでございましょう。女遊びという意味ではなく、若い、男女
の関係という事で、この頃何が変つた傾向でござい——。

東畑 農村界のある課にゐる人の話ですが、戦時中、天敵で九州の或る民家に泊つた時、おどろくべ
き家族をみたと言つておりました。そういう家に二軒泊つたが、一人で姉と妹を妻君にしていて、
二人とも子供がある。それに対して誰を何に考へていない。平凡な女に遇してゐるということでは
ない。

富田 今度の婦人週刊に「農村婦人の地位は高まつたか」という論文を募集しましたが、そのなかの
一つに農村の若い世代に「三三三」の男子が、今回の戦争を通じて、社会との交流があつて、その結果
結婚に対する考えが變つて、専らに對して人間を求めようになつた。だからそこに新しい曙光が見ら
れる」と上平な文章で書いてありましたが、そういうふうには若い男の人の間に、女性観が變つて来
るという傾向はお見付きになりませんか。

新妻 この岡山県で座談会をやつた時に、お母さん方から結婚問題と恋愛問題が出た。十年前にわた
しが徴に来た時には結婚を被つてお聞きになつて給つてお母さんの顔を見たと言ふ。笑ひ顔かと思
つたほどですが、あのいうことは子供にはさせたくないと言つていました。それから若い息子さん達

に「あんた達、そういうお嫁さん貰って満足しますか」というと、「いや、そんなお嫁さんなら貰えない」と言う。

親が決めて結婚子殺つて、お嫁さんに行つて、それを取った時に始めておむこさんの顔を見た、という自今迄の時代から一足飛びに恋愛結婚というんだから、腹を廻しちゃいますよ。

4. 農村の民間活動

内 藤 今までのお話の中に組織活動の問題も出ておりました。充分討議されるいま、になつておりますので、ついでに農村における民間活動の問題に入りたいと思ひます。農林省の民間組合課の方どうぞ……

堀 江 民間組合は農業を近代化するために終戦後再出発しましたが、今までは主として組織とか、経営といったような周りの社会経済的な條件に重き置かれて、ほとんど民間組合自体、自分の仕事をハッキリ見出して開拓して行くということが出来ない状態にあつた。という反省をしております。民間組合は現在小康状態を跟っているが、これからいかに伸びて行くべきかという時に、婦人の問題は大きなクローズアップされて来る。農業民間組合に婦人部運動組織活動も、数年前からホツク出来ております。

先程山本課長のお話にもありましたけれども、われわれ／＼としては、婦人の運動は婦人自身の活動意識が高まつて来るけれども、いくら上からこういうものを作つても成功するものではないと思つたのであります。しかし現在の段階に至つて、農家の婦人部組織も下の方から相当盛上つて、かなり出て来ています。そういうものを押して行くには一方担当指導者の養成もやり、指導者によるところの一般的なレベルの向上の努力活動も必要だということになつて来るわけです。そういう意味で、婦人部活動というものを伸して行くというスタートに立っていると承知してゐるのです。

たゞ、何をどのようにやるか、例えば婦人の役職会を両さますと、やれ、農村の婦人の地位の向上とか、解放とか、あるいは食生活の改善、共同育児施設の改善とか、あるいはその他いろいろ、百デーマゲ取り上げられるが、その問題の捉え方が、あまりにも抽象的で終つてゐる現状にあるわけです。そこで、これらの問題をもう少し分析し、どういう形で促えてどういうふうに行つて行くのが一番い

いのかよく所定して、自信を持ってやつて行くことが、先ず当面の仕事であるというふうに考えているわけでございます。今後いろいろ御一掃に御指導をお願いしたいと思います。

木下、今、農協の婦人組合員は、全国にどの位おられますか。

新妻、婦人の組合員は七十万人です。その中、婦人で役員に就いている方が百名内外、農協婦人部が結成されてそれに入っている人の数は約百五十万です。まだ少ないんです。

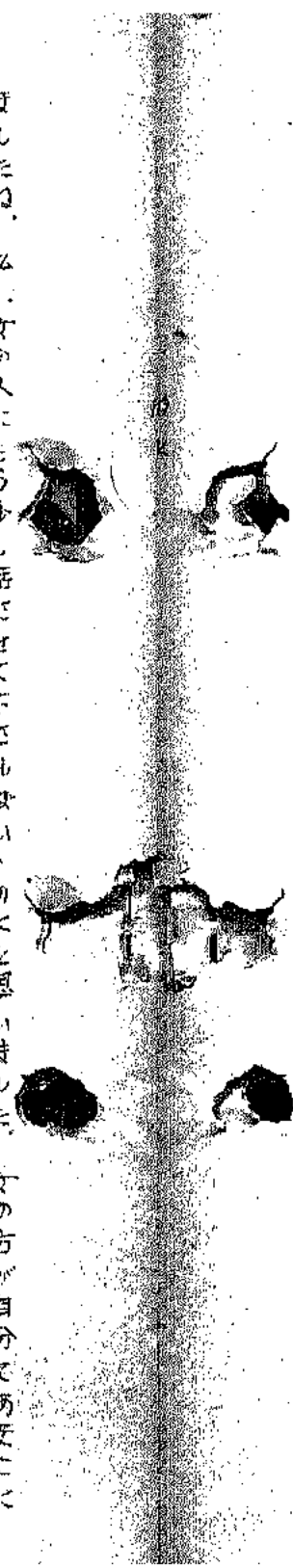
私、今おっしゃったことで一寸お話ししたいのですが、それは官製の婦人団体を作つて頂き度くないんです。農協同組合というのは自主的に出来た組合ですから、官庁としては、資料を上げたり、講演等にもとん／＼人を送つて下さつたりして頂きたいと思ひますが、作つてやる、という態度でやつても官製であつちやあらぬと思ひます。一番私が不満に思ふのは、農協同組合が出来た時に、耕作する農家は、一番先に正組合員になるべきと思つたのが、今日に至つても婦人の組合員は、一割にもなつていない。耕作し男手と同等の生産をしている婦人が同等の地位に立つていないわけです。その内容はやはり経済的の問題があつたり、法の不備があつたり、あるいは家族制度の因習で、一軒の家で一人入れはいい、ということでしょうが、しかしこういうことはやはり女の方に、耕作している農家としての特権を保持させるためにも一人でも多く婦人を正組合員として加入するようにすゝめて行くことが必要と思ひます。

坂三、その点は大いに考慮しなければならぬ。

新妻、農協同組合の方でおやり下さること、一番効果のあることは、県の農協同組合の方で、

農協同組合の男の人達を指導して行くことだと思います。

篠田局長、農協婦人部の会合に私同様に頂きましたが、あり時、男の方が少いふん来ていらつしやい



ましたね。私、女の人にもう少し話させて下されば、のびると思ひました。女の方が自分であそこ

新妻、あ、いう外に出てお話する機会がほとんどないから喋れないんです。そうして、組織的な頼がまだ培われていないから出来ません。先づ始まりはそれだ、いいと思ふんです。そうして行く方が、農協の方が出て来る。ところが、一生懸命何かおつしやる方は、非農家の婦人の方が代表でいらつしやる。だから本當に勤めを待った人の言葉が聞けない。そこに残念なところがある。本當に勤めを待った人は、拙い言葉で言つても、本當にその人達は土から叫んだということを感じる。男の方は、面倒だから言つたらまへということでしょうけど、そこをもう少し親切に婦人の力をかばして頂きたいです。すね、今度は、出来るだけ、女でなければ駄目だということにして貰いたいと思ひます。

坂三、今日二十三日から二十六日まで三日間、全国指導連が音頭を取りまして、大体各県の農協婦人部の活動に立つていらつしやる方に集つて頂いて、討論会兼講習会をもつ事を計画して頂いて、その時又いろいろお伺いしたいと思ひます。

内藤、農政課の方からはまだ余りお話ししたいと思ひておりませんので、現在なさつていらつしやる目標とか、事業の内容など少しお話ししたいと思います。

石、私は、婦人問題全般的事を皆さんの口から聞いて、われわれの行政の参考にしたと思ひております。大石、今までのお話をうかがつていますと、農村婦人の労働問題が主でしたが、農村の婦人の労働が非常に過重である、ということ、農協全般において言えることでありまして、婦人に限らず未成年、若い頃は学童で全部労働の対象になるわけですが、この問題は婦人問題として扱ひておられ、一応日本全体の農協問題として解決しなければならぬ問題だと思ひます。日本農協が非常に労働集約的であるから、どうしても労働を換約してそれから労働の生産性を向上して行かなければいかぬと

いうふうには、親林有としてはやつてありますから、その点は一応懸案問題で解決するとして、この程度まで、農村の婦人の労作を軽減するかどうかということが、さつき出ましたが、これは終でやっていると云へばそれまでであります。實際にいかん農村に付いて、労作が過重だからおやめなさいと言つても、それによつて農村の経済がマイナスにならば出来難いわけです。農村の皆さんに対して行つた結婚の奨励調査等を見ても、ほとんど懸案を希望してない。それから男の人に聞いても、ほとんどが懸案を望んでない、という点で、かなり懸案を望んでないやないかと思ふ。結局結論としては組織的な力を以て解決すべきと思ふ。一人一人では打ちやぶれない封建性も兼外組織の力で打ちやぶつて行かれますと思ふ。農村の婦人に現在の生活から要すものに大きな希望しみたい。うるおいを待たすというチャンスは、いろ／＼農村運動に活躍されている人が作つてやることが必要やないでしょうか。

内 藤 今までの討議の間に、組織活動に大希望をかけて討議がされて来たと思ひますので、もう少し農村婦人の問題解決の爲に組織活動にかけられた希望についてお諮願えたらと思ひます。

堀 江 一つ労作省の方にお伺ひしたいんですが、組織活動を伸して行くには何と言つても指導者が重要と思ふが、婦人運動の指導者就中農村婦人運動の指導者と言ひますものはどういふ要件——ということですが、要件を備へるべきでしょうか。それを一つさかせて頂きたいと思ひます。われわれも勉強が足りませんので……。

藤田局長 さつき東畑先生がおつしやいましたね。村から出た人、ということが出来れば非常にいい條件だということと思ひます。それが出来なければ、農村が出来るとは知つてゐる者でなければならぬ。いふふううに、本當に常識的なことですから考えます。どうして、やはり私は、男の方も大事ですが、今日、特に婦人団体の方もお招きしてありますし、報道関係の方もお招きしてあります。

そういう方が、役人や男の方々の他に、手をさしのべて一緒に行くという気持ちになつて下さることが一番いいと思ひます。婦人団体の方々の中から、いわゆる職業的な指導者でなくて、農村の方々の地位を高めなければ、一般の女性の地位も高まらぬし、ひいては男の地位も高まらぬのですから、その心持をもつて農村に入つていって下さりたいと思ひます。そして村の人に教える積りで行くので、教へて頂く、という純粋な気持ちで行く人は役に立つと思ひます。

新 豊 都会の方が教えるなんて、おこがましいと思ひます。農村と都会とは違ふんですから、ウツカリして教へに行こうとしたら、とんでもない失敗になると思ひます。ですから、教へに行くという人から行つて下さるくてもいい、本當に友誼として、勉強する積りで行つて頂きたいと思ふんですが、

堀 江 そうですね、やっぱり婦人の方がよいでしょうか。

藤田局長 両方必要ですが、女でいい、人があればいいと思ひますが、いかゞでしょうか。

友の会 私共してありますのは、規模も小さうございますし、部分的かも知れませんが、今まで出てくるお話しは少しやり方も違ふと思ひますので申上げてみたいと思ひます。

一番初めに始めましたのは、昭和十年、東北農村に凶作があつた時、東北六県に一つずつセツツルメントを運きたいと思ひましたが、六県の中二県は條件がどうしても整わぬので、四県で行いました。初め五ヶ年計画で、一番貧しい村にやりました。その村の中でも一番貧しい主婦を十人選んで、農閑期を利用して、その人達に、全国友の会から、着た北の口の衣類を集めてそれを縫わせることとから教へ、付いた時間によつて衣服券を出して、衣服と引き換えにするというやり方をしました。段々に着に何って、新しく入学する子供がこの家にもあるが、新入學の子供に何となくして合理的な服装をさせたいと考へて、洋服とは名ばかりのものですけれども、いろ／＼着えた服を一組ずつ、集

つた人達に教えて、一緒に縫わせて、時間から割り出した被服券で洋服を持たせて、子供がそれを着て始めて学校に行くようにいたしました。学校に行つても大変驚かれた。そんなことから板々に希望を持つようになつて、又その仕事をしている間に、一緒にお昼御飯を作るとか、万屋床というようなものも、段々に寝床を敷いて、上げ、おまきを着るようになつて指導し、又、窓も何もない、牛や馬と同じような各部屋に窓を明けることを、自然にその人達が気がつくようになつては向けて参りました。

そんなことで、初めは、衣類を縫うということから入つたのですが、生活全体に緩々眼を開くようになつて、五年の後には生活ということに少しふんみん、興味を持つようになつて、段々おはさん達でひるめて、自らのものにするようにして、あと五年は速に生活指導をする、というようにして、その間には段々全国友の会を作る、セツソルメントの建物を造る、集団的な仕事をしたり、農繁期には共同炊事をしたりして、大体十年間で作りよしました。今でも友の会が続いてあります。全国の大会有れば、おはさん達で旅費を工面して大会にも出て来るようになつてはりました。

それから戦争後には、東北だけに限らず、全国で農閑期に畑を重ねて職業学校をいたしました。それは今でも続いております。農閑期に毎年二十ヶ所から二十五ヶ所、そこで大抵二週間から二十日位の間に、主に衣類をとりあげて、簡単に着脱着を教えたり、下着を教えたりします。また農家の食の問題についても、いろいろのものを食べて、栄養をもつとるようになり、取り合ひを考えなければいけないというようにし、又、住居のことや整理の仕方なども総合的に考えています。最近では自由学園の学生が、毎年参加することになつて、二、三人ずつ各セツソルメントに加わつて、その上農家の友の会の人達と一緒に指導しています。このようにして続いておりますが、本当に生活に眼を下した自発的なものを育てることに努めております。

内藤 より実例をさかしてあります。

内藤 まだ問題も残されているようですが時間も経ちましたので、簡単に農村婦人の生活を語る為の方策というようにすることにつきまして東畑先生にお願ひしたいと思ひます。

東畑 私が感じることは、農村婦人だけではないと思ひますが、日本全体として、特に農村では別に日常生活を尊重する風が少いと思ひます。現に、私の家に、つい数ヶ月前に東北の田舎から中が来て、いろいろな話をするので、中学校の時に修学旅行に約一万円使つた。昔はどうかというところ、いろいろ生活をしている。われわれから見ると、日常生活はどうでもいいもの、他の時が大変だということになつて来て、婦人の解散なんというのは、下手をすると、珍しい時だけが解散で、日常生活に至らぬ奥が深いと思ふ。

農村でなくても大体そうです。おやじがやつていふことを見れば、旅行する時は贅沢する、おまさんの方は贅沢するが、家の日常生活はまるで重たい。その点、私は農村において特にひどいと思ふ。この考えを破つて日常生活が一番大事で、毎日を楽しみ、楽しむというところの放散にすべてを注ぎ込んで、それも生活におり込んでいふ形を持つて行くことを具体化しなければ、解決は難しいと思ふ。社会のしごとインテリの生活になつて来ますと、そういう奥がいろいろなことで、日常化している。これは教育の背景にしないと、私はよくないと思ふ。

どういふ道から入つて行くかということが問題で、これは、日本のインテリというものが男性、女性を問わず、すべてそういうことについて唯一の発言者であるのに、日常生活をつまらぬものとし、珍しいことではないのかんという一つの知的制裁がある。だから、そこから話を始めて来ないと、どうも奥が深いことに向かかかると思ふ。

正直なところ、婦人の問題や、生活の話をするのは、インテリでも大体飽いぬということになつてい

ます。「レジスタンス」等というところ、之うそうに聞こえる。インテリのくせです。

外国語の一つも使えない、僕は、そこを掘って行くのが結局一番近道になると思います。

田 彼の奥でございませうけれども、農村は特に美しいんでせうか。例えば自分を非常に食うくても本家が立派だということに満足する。又、みんなはお粥をすすつても、東京に立派な建物があるというので喜ぶというように、权威に対する憧憬と云つたものが一般に日本人には強い。

これは日本の社会のビエラルヒーと関連したものだと思いますが、

東 畑 今、友の会のお話で朝にも夕さんから聞いた話を思い出したのですが、それは秋田縣の生保内、農民にこんな料理を教えた。それを、全部料理をしてしまわないで、家に帰って、二分か、三分熱を加えて何とかすればいいというやり方で教えた。すると、おかみさんが家へ帰って一寸あつたためて料理を出した、普段と違う料理を出したから、これは何だということ、驚いたことは農民は味りながら飯を食うということがないのに、その時けそうして話が出た。ということですが、農村の生活で云ひますと、勤物的に飯を食つて、味りもしない。食うことは食つて、何く時は何く、楽しみは別だと隔離する。

そういう面を、私は日本でももう少し強固する必要があると思う。よそ行きでない生活、これはある意味で経済的にも、安いんじゃないかと思ひます。

内 藤 それでは終りに局長から御挨拶して今日の婦人問題会談を終わりたいと思います。

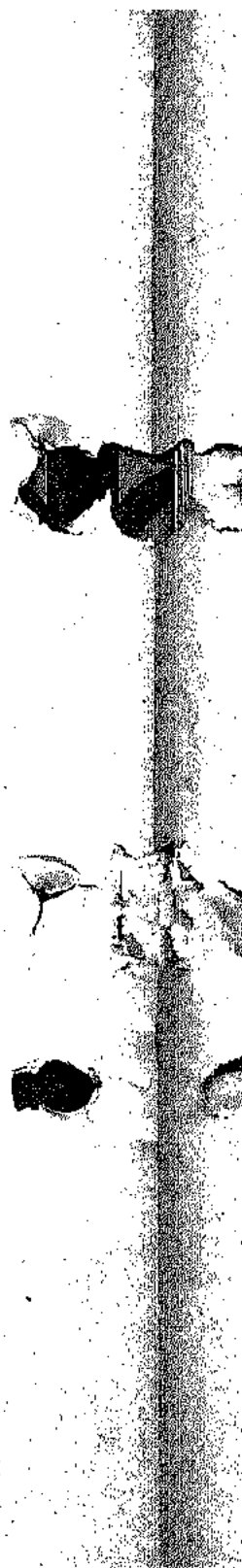
藤田局長 今日ほんとにありがとうございました。

今、東畑先生から地道に進んで、目立たないところの日常生活を一步步進めて行くというお話を、伺つて私達も結局それに向つて仕事を進めているということを感じて、勵むぞれに次第であります。御出席の皆様から従前にも増して御協力を御約束したところで、本當にありがとうございました。

ります。

婦人団体や報道関係の方々も、どうぞ今後ともよろしく御願ひいたします。

まことにありがとうございました。



一九五二年八月 日印刷
一九五二年八月 日發行
編輯者 東京都十代町區大手町二二七
發行人 房房省帶人少年局
印刷人 岡 陸 一
印刷所 櫻井廣清堂